

《特集：平成28年度日本薬学図書館協議会 中堅職員研修会》

## 著作権に係る利用者教育： 城西大学水田記念図書館の事例報告

若生 政江\*

### 1. はじめに

城西大学（以下、本学）では、図書館主催の著作権講演会を2014年より毎年開催している。講演会開催に至った経緯と開催状況、アンケート調査の結果を交えて報告したい。本稿は、2016年度の日本薬学図書館協議会中堅職員研修会において「著作権に係る利用者教育」と題した事例報告の内容に2017年6月開催の状況を追加し、最新の内容に加筆修正したものである。

### 2. 図書館における学習支援活動

本学図書館では、学生の自学自修を支援するために教員や教学部門と連携して各種の取り組みを行っている。

#### 2.1. 図書館ガイダンス

図書館ガイダンスは、新入生から大学院生まで、各教員の申込みにより授業の一コマ90分で初級編、応用編など教員の要望に応じた内容で実施している。2016年度のガイダンスは、全学で111コマ、2,624名の学生が受講している（表1）。

ガイダンスの申込みは年々増加の傾向にある（図1）。ガイダンスでは、最後にアンケート調査を実施しているが、毎回、回答者の90%以上がガイダンス受講は「役に立った」との回答を得ている。

#### 2.2. 講習会等

本学ではガイダンスのほか、各種講習会、ビブリオバトル、ライブラリーラウンジ、読書会など様々な催し物を開催している。なかには学生アドバイザーが主催するものを図書館が協力・支援しているものもある。2016年の開催内容は表2のとおりである。

##### 2.2.1. データベース等の講習会

図書館が契約しているデータベースについては、導入時は元より、データベースごとに利用対象を絞って年10回から11回程度講習会を開催している（表3）。

データベースは、多くを継続契約しているが、その利用統計を基に教員と日程調整して講習会を開催してい

る。また、ガイダンス後のアンケート調査での「講習会で受けてみたいデータベースは？」の回答についても講習会実施の参考にしている。

このほか、教員・院生向けに「合同電子リソース説明会」も開催している。これは、図書館で導入している各データベースの特徴を教員に知ってもらい、学生・院生へ利用を進めていただく目的で各ベンダーの協力を得てJMLA/JPLAコンソーシアム説明会の方式で実施している。2016年度は日程調整がつかず開催できなかったが2017年度は2回に分けて開催することになっている。

##### 2.2.2. 就活支援DVD上映会

その他、本学では図書館・就職課共催で学生の就職活動支援を目的としてDVD上映会を毎年、数回開催している。これは、図書館所蔵の館内上映可能な資料を図書館視聴覚室で上映するもので、就職課員による説明やアドバイスの時間も設けている。図書館と就職課との連携による取り組みであり、時には、キャリアデザインの授業と連携して教室に出向いて上映を行うこともある。

### 3. 著作権講演会開催の経緯

今回のテーマである著作権講演会については、なぜ図書館が開催することになったのか、その経緯について先に述べる。

本学では、図書館業務の体制を2008年度から業務委託に切り替えて運用しており、大学職員は、管理職と課員の2名で図書館全体を管理・運営している。これまで業務委託のメリットを生かすべく、開館時間の延長、休日開館など利用者サービスの拡充を図ってきたが、バックヤードである委託業者からも図書館のために何か支援できる場所があるのではないかと提案をお願いしていた。

そのようななか、本にまつわる講演会のようなものはどうかと提案をいただいた。出版社も販促活動の一つとして、編集者や本の作り手が読み手の学生の前に出て本にまつわる話をするのは意義あることとして積極的に受けていただけるとのことで、この提案を受け入れることとなった。

#### 3.1. 図書館主催講演会

2013年11月と12月に図書館主催の講演会「岩波書

\* Masae WAKO  
城西大学水田記念図書館  
〒350-0295 坂戸市けやき台1-1  
E-mail: wako@stf.josai.ac.jp

店現役編集者が語る 編集の仕事：本が生まれるまで」を開催した。当日は講演会連動企画として「岩波書店がお勧めする本 100 選」と題して会場入口に図書 100 冊を用意し学生選書を同時開催した（図 2, 3）。この企画は、11 月経営学部棟、12 月医療栄養学科棟と 2 回に分け、社会系学部と自然科学系学部が参加しやすいように開催した。出版や編集の仕事に興味のある学生や本好きの学生など 1 回目 57 名、2 回目 54 名の参加があり、なかには 2 回参加した学生もいるほどであった。

この取り組みは『新文化』2013 年 12 月 5 日号に“編集者が「本づくり」解説：大学生向け読書推進”という記事で取り上げられた。

表 1 2016 年度図書館ガイダンス実施統計

学部等	コマ数	出席者（人）
経済学部	19	302
現代政策学部	33	535
経営学部	44	1,146
理学部	4	85
薬学部	7	524
短期大学	1	13
別科	1	15
経営大学院	2	4
計	111	2,624

表 2 2016 年度実施講習会等

内容	回数	参加者（人）
データベース講習会	11	263
著作権講演会	2	206
セミナー	1	87
就活上映会	4	103
ビブリオバトル	8	237
ライブラリーラウンジ	4	113
読書会ざくざく	2	52
地域公共図書館共催公開講座	1	85
計	33	1,146

2014 年 5 月には、元筑摩書房社長で現柏書房取締役より「本が読みたくなるカラクリ：出版社の営業ってナニ？」と題した講演会を開催し 73 名の参加があった。また、同時開催の学生選書では「筑摩書房の元社長が選ぶ、大学生に読んでほしい本 300 冊」を展示した（図 4）。

これらの講演会は、学生への読書推進のほかキャリアデザインとしても参考になるもので、参加者アンケートによると、開催は大変好評であった。

### 3.2. 最初の著作権講演会

2014 年、STAP 細胞に関する論文が社会問題となったのを機に、図書館でできることは何か？ 図書館だからできることがあるのではと考え、著作権に関する意識を深めていただく啓発活動として著作権講演会を開催する企画を立てた。最初の講演者は、以前講演会でお世話になった岩波書店より編集総務渉外担当の伊藤氏に決まり、出版社における訴訟問題など具体例を示しながらの講演をお願いした。「知っておこう著作権」と題した講演会は、当初から申込みが多く、著作権というテーマが、論文作成を控えた学生・院生と指導する教員の両者にとって関心の高いものであったようだ。ゼミ単位、研究室単位での申込みも含めて 132 名の参加があり、予定の時間が過ぎても活発な質疑が続くほど盛会であった。

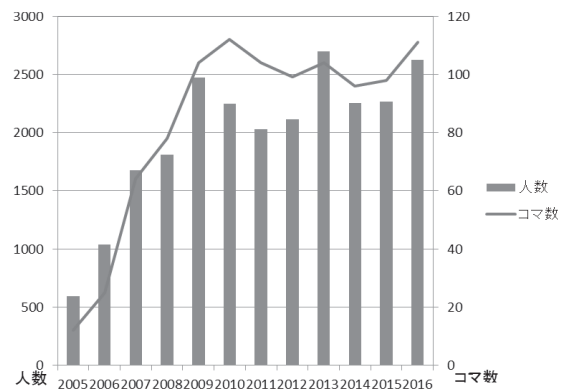


図 1 年度別ガイダンス実施数

表 3 2016 年度実施データベース講習会

日付	時限	参加者（人）	内容
5 月 23 日	4	28	レポートのための新聞記事・企業情報活用「日経テレコン講習会」
6 月 30 日	4	11	東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー講習会
8 月 22, 23, 26 日	3	36	薬学部研究室向けデータベースガイダンス
9 月 28 日	5	15	メディカルオンライン講習会
10 月 21 日	4	10	図書館・就職課共催「就活向け日経テレコン講習会」
11 月 25 日	3	31	化学科・薬学部向け「卒業研究・実習のための JDreamⅢ講習会」
12 月 14 日	3	5	レポート作成・卒業研究に使える「医中誌 Web 講習会」
2 月 21 日	3	10	教員・院生向け「EndNote 利用講習会」
3 月 8 日	2, 3	82	化学科学生のための SciFinder 講習会
3 月 8 日	4	35	薬学部学生のための SciFinder 講習会
計	11	263	



図2 講演会と学生選書 (2013年12月)



図5 著作権講演会 (2015年6月)



図3 講演会と学生選書 (2013年12月)



図6 著作権講演会 (2016年12月)



図4 講演会と学生選書 (2014年5月)

### 3.2.1. 著作権講演会開催の効果

著作権講演会の開催については、図書館長・副館長の尽力に負うところが多い。特に薬学部では副館長の要請により、FD研修に準ずるものとして位置づけ、教員から学生・院生への参加を進めていただいた。研究室単位

での参加もあった。

社会系学部でもゼミ単位での参加があり、特に「民法」の教員が学生への参加を進めていただいたことも効果があった。また、教職員の参加、特に他部署の職員らの参加があったことも開催の成果であった。

当日のアンケート調査では、回答者の70%が「とても参考になった」、28%が「まあまあ参考になった」と回答している。また、教員からは「とてもよい講演会でしたので、学生にとって、大いに参考になり、また、大きな刺激になったと思います」との意見もいただいた。また、「続けて開催してほしい」という声も多く寄せられた。

### 3.3. 著作権講演会開催の課題

著作権講演会を継続開催するためにはいくつかの課題がある。授業やゼミ単位での受講となると、専門の講師に依頼する必要がある。著作権は、解釈により判断が揺れるところもあり、法の改正も間々あるもので、専門の方をお願いするほうがよい。そのためには講師料を予算化する必要もある。また、受講者の出席管理にも誤りがあるってはならない。

これらの課題を乗り越えてでも著作権の啓発活動は、図書館として取り組む意義がある。こうして継続開催を進めることになった。

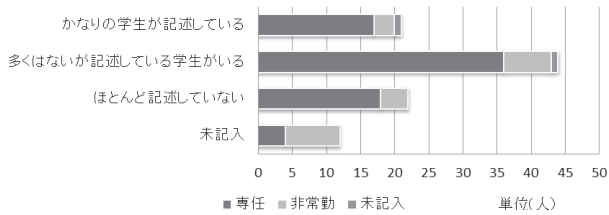


図7 レポート作成の際に、学生は利用した資料の典拠を記述していますか？

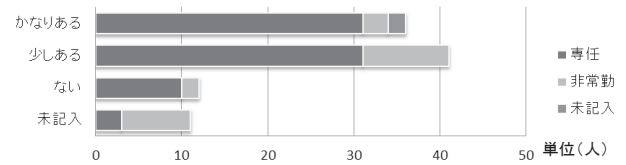


図8 レポートや課題において、ネット上のデータのコピーや資料の丸写しだと思われるケースはありますか？

表4 著作権講演会参加状況

所属別参加者数/開催日 (開催時間)	2014年10月 15:10-16:40	2015年6月 13:30-15:10	2016年6月 16:50-18:20	2016年12月 13:30-15:00	2017年6月 16:40-18:20	累計人数
経済学部	8	0	0	1	2	11
現代政策学部	15	13	0	81	0	109
経営学部	2	1	0	1	1	5
理学部数学科	1	0	0	0	0	1
理学部化学科	1	3	6	0	11	21
薬学部薬学科	21	2	0	0	1	24
薬学部薬科学科	8	6	0	7	0	21
薬学部医療栄養学科	1	0	0	0	0	1
大学院経済学研究科	0	2	0	8	8	18
大学院経営学研究科	13	1	1	23	0	38
大学院理学研究科数学専攻	0	0	0	3	0	3
大学院理学研究科物質科学専攻	0	0	0	0	2	2
大学院薬学研究科	23	52	41	0	53	169
短期大学	2	0	0	0	0	2
科目等履修生	0	1	0	0	0	1
健康市民大学	1	0	0	1	0	2
教員	18	5	7	8	8	46
職員	6	6	1	1	3	17
図書館員	11	10	6	10	7	44
城西国際大学	1	0	0	0	0	1
合計参加人数	132	102	62	144	96	536

4. 著作権講演会の開催

2015年6月の講演会は、論文・レポート作成に限らずSNSなどの利用も含めた著作権についての講演を専門の講師にお願いした(図5)。大学院では、薬学研究科の「論文作成法特論」の授業と連携した開催要望があり、院生の参加が確保された。

2016年には、当時の大学院長から各研究科長宛文書「大学院生の研究倫理教育の実施について」により、「研究倫理教育に関する教材の履修・通読等」と共に「研究倫理教育の受講」として、「図書館による著作権等のガイダンス」受講が選択肢の一つとして明記された。このことを機に一人でも多くの学生・院生が参加できるように開催を年2回としている(図6)。

さらに、平成28年度第3回全学FD研修会では「研究倫理規程」が取り上げられた。図書館では、事前に教員向けに実施していた図書館ガイダンスについてのアン

ケート調査結果のなかから著作権に関する設問と回答を抽出し、資料として提出した。レポート作成の際に、学生は利用した資料の典拠を記述しているか？(図7) レポートや課題において、ネット上のデータのコピーや資料の丸写しだと思われるケースがあるか？(図8) 教員が日ごろ感じていることを調査したもので、その結果をFD研修に資料として提出し、課題の共有を図ったのである。

5. 著作権講演会の参加状況

著作権講演会の参加状況は表4および図9のとおりである。授業連携した薬学研究科も含めて大学院生の参加が確保されるようになったが、学部生も授業やゼミでの参加申込みがあった。2016年6月と2017年6月の参加者数が少ないのは、薬学研究科の授業の関係で開催時間が遅いこと、開催場所が薬学部棟であるため、他学部の学生が少なかったことによる。この点については、年2

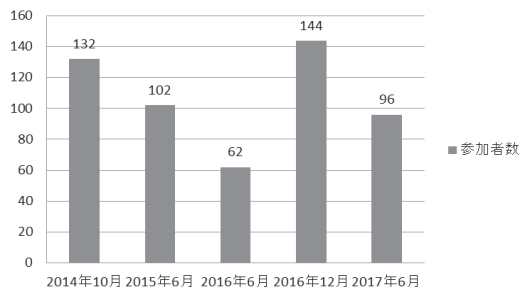


図9 著作権講演会参加状況

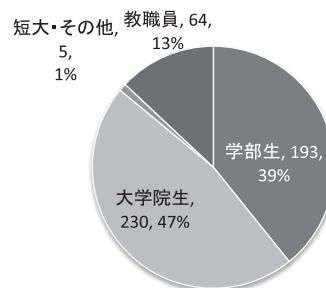


図10 著作権講演会参加者累計に見る割合 (図書館員除く)

表5 今回の講演会をどこで知りましたか？

開催年月	2014年10月	2015年6月	2016年6月	2016年12月	2017年6月
授業での案内 (教員の紹介含む)	59	65	37	72	71
図書館員の紹介	8	3	1	6	5
JUnavi (学内メール)	14	6	3	5	1
図書館以外に貼ってあるポスター	5	17	12	10	9
図書館内のチラシ・ポスター	15	10	4	5	14
図書館ゲート前電子掲示板	1	3	1	4	4
図書館ホームページ	5	3	2	1	0
twitter	0	2	0	0	0
学生アドバイザーの案内	0	2	1	0	0
清光会館マルチビジョン	0	1	0	0	1
その他	1	0	3	6	3
合計	108	112	64	109	108

表6 今回の講演を聴く前は著作権についてどれくらい意識していましたか？

	2014年10月	2015年6月	2016年6月	2016年12月	累計
知っていて、守っていた	23	28	15	34	100
知っていたが、守っていなかった	31	7	5	18	61
あまり知らなかった	39	48	34	45	166
有効回答数合計	93	83	54	97	327

表7 今回の講演会は今後の参考になりますか？

	2014年10月	2015年6月	2016年6月	2016年12月	累計
とても参考になる	65	50	38	52	205
まあまあ参考になる	26	18	15	43	102
あまり参考にならない	1	0	1	1	3
有効回答数合計	92	68	54	96	310

回開催し、開催場所、開催時間を別途設定することで別の集客を見込んでいる。図書館員を除いた累計による参加者の割合では、大学院生が47%、学部生が39%となっている (図10)。

### 6. アンケート調査の結果

講演会当日のアンケート調査の結果については抜粋して表5~7および図11, 12のとおり紹介する。

### 7. 開催効果

著作権講演会は、毎年相当数の参加が見込めるようになった。学内での著作権に対する認知度も少しずつであるが上がってきている。著作権について「あまり知らなかった」「知っていたが、守っていなかった」と回答した参加者の大多数が、この講演会が「とても参考になる」「まあまあ参考になる」とアンケートに回答している

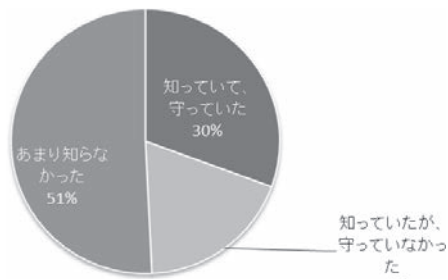


図 11 今回の講演を聴く前は著作権についてどれくらい意識していましたか？

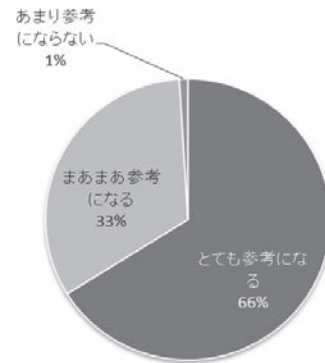


図 12 今回の講演会は今後の参考になりますか？

ことでも開催の効果はあったといえるであろう。

また背景には、文部科学省より2016年8月「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」<sup>1)</sup>が出されたことも大きい。これを受けて、大学院生への研究倫理教育の実践の一つとして「図書館による著作権等のガイダンス」受講を取り上げたことや、全学FD研修会のテーマが「研究倫理規程」となったことも大学の取り組みと合致したことになる。「全学教務部委員会として対応するよう計画します」との教務部長からの後押しも大きい。図書館としては、著作権を遵守し、論文作成のルールを知ってもらい、不正防止に繋がるよう効果を期待している。

また、教員からは利益相反についてのテーマでも講演会を開催してほしいとの要望が寄せられた。これを受けて外国大手出版社の協力を得て2017年2月、英語論文執筆セミナー「アクセプトされやすい論文とは？」を開催し、利益相反についても触れていただいた。自然科学系の若手教員、大学院生ほか87名の参加があり、参加者のほとんどが「とても参考になった」「参考になった」とアンケートで回答しているが「利益相反についてさらに詳しいセミナーを」の要望も上がっている。

## 8. まとめと今後の課題

著作権講演会は、多くの協力を得て開催している。特に集客のためには教員との連携、授業との連携は必須である。講演会開催時には様々な広報をしているが、結果的には授業での案内、教員の紹介が65%と効果が高い(表5)。また、教務部、学務課など他部署との職員連携も必要であり、部署を超えての全学的な取り組みに位置づけていくことが必要である。

さらに、書店・出版社などの協力関係に負うところも大きく、日頃から信頼関係を築いておくことも大切である。

少しでも著作権についての理解を深め、それぞれの教育・研究の場で著作権を遵守していただくためには、継続的に開催していくことが効果的であるといえる。

教員からは、図書館のガイダンスの一つとして日常的に図書館員がやってほしいとの要望もある。図書館員は日常的に著作権にかかわる質問に答えている。しかし、個別対応でなく体系的に授業の一コマとしてのガイダンスとするためには、専門的な知識が必要であり、現状ではまだ難しく今後の課題である。

## 9. 終わりに

2015年からの講演会資料は、講演者の許諾を得て、城西大学機関リポジトリJURAに掲載している。また、講演会の模様、およびアンケート調査の結果は、図書館ホームページに掲載しているのでご覧いただきたい。

## 参考文献

- 1) 文部科学省. 研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン. (オンライン), 入手先 <[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/26/08/\\_icsFiles/afiedfile/2014/08/26/1351568\\_02\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/08/_icsFiles/afiedfile/2014/08/26/1351568_02_1.pdf)>, (参照 2017-07-28).
- 2) 知っておこう著作権 (2015). (オンライン), 入手先 <[http://libir.josai.ac.jp/il/meta\\_pub/G0000284repository\\_JOS-Presen20150630](http://libir.josai.ac.jp/il/meta_pub/G0000284repository_JOS-Presen20150630)>, (参照 2017-07-28).
- 3) 知っておこう著作権 (2016). (オンライン), 入手先 <[http://libir.josai.ac.jp/il/meta\\_pub/G0000284repository\\_JOS-Presen20160628](http://libir.josai.ac.jp/il/meta_pub/G0000284repository_JOS-Presen20160628)>, (参照 2017-07-28).
- 4) 知っておこう著作権 (2016, pt. 2). (オンライン), 入手先 <[http://libir.josai.ac.jp/il/meta\\_pub/G0000284repository\\_JOS-Presen20161207](http://libir.josai.ac.jp/il/meta_pub/G0000284repository_JOS-Presen20161207)>, (参照 2017-07-28).
- 5) 知っておこう著作権 (2017). (オンライン), 入手先 <[http://libir.josai.ac.jp/il/meta\\_pub/G0000284repository\\_JOS-Presen20170627](http://libir.josai.ac.jp/il/meta_pub/G0000284repository_JOS-Presen20170627)>, (参照 2017-07-28).
- 6) 図書館主催講演会 (実施日・参加者数・アンケート結果). (オンライン), 入手先 <<http://libopac.josai.ac.jp/guide/statistics.htm>>, (参照 2017-07-28).

(原稿受付：2017.7.28)